

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2671200109
法人名	株式会社 ケアトラスト
事業所名	グループホーム メイプルリーフ
所在地	京都府宇治市木幡南山74-7 (電話) 0774-32-5053

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年9月5日
評価確定日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	6 人
常勤	1人
非常勤	10人
常勤換算	4.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1100 円	

(4) 利用者の概要(7月 29日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武田総合病院、辰巳診療所、武田歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社ケアトラストが運営する当該ホームは、介護保険導入と同時に地域密着型のグループホームを目指し開設されました。閑静な住宅街の中にあり、庭には、パラソルやベンチを置き、四季の移り変わりが感じられる木々に囲まれています。門はなくオープンな雰囲気があり、地域の方々も自由に入りやすく、自然に地域に溶け込みやすい環境になっています。また、定員6名と少人数であり、家庭的で利用者と職員は、お互いを尊重し助け合いながら良好な人間関係を築かれています。また、共に寄り添い利用者のペースに合わせた生活を送ることができるよう支援し、毎日が楽しく笑い声があふれるホームを目指されています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価のあった市町村との連携では、月に1回宇治市からの介護相談員を受け入れ、報告書や連絡のやりとりをするなど活発に働きかけています。また、センター方式を利用して思いや要望などの情報を集め、介護計画に反映させています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が異動で着任して間もないため、よく知っている職員や副社長にききながらまとめ、職員に周知しました。職員には評価の意義を理解してもらい改善計画を話し合い、取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、民生委員、地域代表、地域包括支援センター、事業所役員などが参加する運営推進会議を2か月に1回開催されています。ホームでの状況や研修内容を報告し、問題点の話し合い、様々な意見を頂いて、サービスの向上に反映しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には、全職員が疑問点や相談に乗るなどコミュニケーションを取り、安心して帰宅されるなど話しやすい環境を作っています。また、ケアプラン作成時や、運営推進会議に出席した家族の意見や希望を聞いてサービスの反映に取り組んでいます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り、地域の行事などの情報を得ています。自治会の活動はあまりなく、老人会には入っていません。近隣にホームに理解ある人々がおおり、気軽に立ち寄られたり、野菜をもらったり、散歩時の挨拶など親しい交流されています。保育園の運動会や新年会などに参加したり、近隣宅の庭から宇治花火大会を観せていただくなどの交流があります。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当該ホーム開設時に、事業所の理念として作られた地域密着型サービスとしての理念が、法人の理念となり定着しています。利用者が、お互いに支えあい、協力、自立した生活が送れるように「支えあい、自立、解放、前向き」を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任職員には、入職時に理念について説明し理解してもらい、実際にケアの場では、事務所やリビングに掲示し、職員会議で理念に添ったケアができていないか等話し合っています。また、理念を基に毎年度の目標を掲げ、日々取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の行事などの情報を得ています。自治会の活動はあまりなく、老人会には入っていません。近隣にホームに理解ある人々があり、気軽に立ち寄られたり、野菜をもらったり、散歩時の挨拶など親しい交流されています。保育園の運動会や新年会などに参加したり、近隣宅の庭から宇治花火大会を観せていただくなどの交流があります。	○	老人会の活動状況や行事などを知り、利用者との交流の場があったり、ホームを知ってもらう機会とならないか等を検討し、老人会への加入も考えてみられてはいかがでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が異動で着任して間もないため、よく知っている職員や副社長にききながらまとめ、職員に周知しました。職員には評価の意義を理解してもらい改善計画を話し合い、取り組んでいます。前回の外部評価を受けて、市町村の連携では、月に1回宇治市からの介護相談員を受け入れたり、介護計画では、センター方式を利用して思いや要望などの情報を集め、介護計画に反映できるよう取り組みました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、地域代表、地域包括支援センター、事業所役員などが参加する運営推進会議を2か月に1回開催されています。ホームでの状況や研修内容を報告し、問題点の話し合い、様々な意見を頂いて、サービスの向上に反映しています。		

グループホームメイプルリーフ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、顔なじみになっています。月に1回、宇治市より介護相談員の来訪があり、書面で報告書や、連絡を交わしています。様々な目線で見て評価してもらうことにより、職員のモチベーションも上がったり、改善ポイントは話し合いサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りである「メイプル通信」を発行したり、利用者一人ひとりの健康状態やホームでの様子、外出時での様子を載せた写真入りの手紙を送付しています。また、来訪時には、コミュニケーションを取り様子を伝え、何かあった時には、電話で報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、全職員が疑問点や相談に乗るなどコミュニケーションを取り、安心して帰宅されるなど話しやすい環境を作っています。また、ケアプラン作成時や、運営推進会議に出席した家族の意見や希望を聞いてサービスの反映に取り組んでいます。来訪の頻度の違いや運営推進会議の出席も一部のため、均等に家族の意見を聞くことが難しいと考えています。	○	面会などで直接話しにくいことや多くの家族からの意見を聞くために、家族アンケートの実施等を検討してはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、日々のコミュニケーションを大切に職員の心身の状況に気を配り、何でも言い合える関係を築いています。また、事業所役員との面接が年3回あり、相談できる環境を整え、できる限り離職を最小限に抑える努力をしています。職員の交代時には、馴染みの関係が出来ている職員が間に入り、ダメージのないように取り組んでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を職員に知らせ、希望に応じて参加しています。また、常勤職員は、3か月毎に内部研修を実施しています。外部、内部問わず研修に参加した職員は報告書を残し、参加できなかった職員も周知出来るように職員会議で伝達研修しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回、京都市のグループホーム連絡会に参加しています。管理者の情報交換や職員同士でのターミナルケアや口腔ケアなどの現場での不安を題材に勉強会を行っています。意見交換し、体制を整える準備など、その時の困難事例について話し合いサービスの向上に活かしていけるよう取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、出来るだけ利用者と家族に見学に来てもらい、リビングで過ごし、雰囲気を見てもらっています。また、自宅や入院、入所先に訪ねて行き、利用者や家族と話をして入居前の生活について情報を得ています。入居後は、コミュニケーションを取り、多くの情報を取り入れ、馴染んでもらえるよう努力しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、生活歴やその時の状況に応じて利用者の意思を尊重し、出来ることをしてもらえよう料理の作り方や季節のしきたりなど、昔と今の違いなどを教わりながら、共に支えられる関係作りを努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン作成時は、家族や利用者から多くの情報を得ています。日々のケアの充実や思い込みにならないよう利用者や家族からの希望を聞き、思いを引き出せるよう努力しています。毎月のケース会議で、職員からの情報も取り入れ意向や希望の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式も一部使用しながら、利用者や家族とのコミュニケーションからの情報を基にケース会議などで話し合い、どのような生活を望んでいるかを反映できるように介護計画を作成しようと考えています。	○	センター方式では、できることやわかること等の現状の把握に努め、それを基に生活の希望がニーズにあがる事が期待されます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとの見直しと介護認定変更時を介護計画の見直し期間としています。毎月のケース会議で、介護計画が現状に即しているかについて話し合っています。また、状態の変化があった時は随時見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物帰りに喫茶店に入り、ソフトクリームや食べたいたこ焼きを買ってきたり、会話の中で行きたい所や雑誌に掲載されているところを見て外出したり、その時々々の希望に添った支援をしています。また、嵐山の「美空ひばり館」に行ったり、銭湯に職員と行くなど、計画を立てて希望に応じての対応を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続しています。月に2回の往診医の受診があり、緊急時や急変時など何かあった時は、往診医や看護師に24時間連絡が取れるよう体制があり、安心して医療が受けられるよう支援しています。また、訪問歯科や歯科衛生士の往診がそれぞれ月に1回あります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時にホームでの方針を書面にて提示し説明しています。利用者や家族の希望、医師と話し合い、状況に応じて、出来るだけ受け入れが出来るようケース会議や研修で知識を身に備えられるよう努力し話し合っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや対応については、馴染みの関係が出来てくると、慣れてくることもあり、職員同士がその時の状況に応じて注意し合っています。常に敬語での会話に努めています。また、介護記録等の利用者の名前が分からないようにイニシャルで書き、事務所の棚に保管しています。また、利用者の診察券や保険書などの個人情報は、鍵付きのロッカーに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合わせ、体調や状況に応じた支援が出来るように努めています。職員の都合に合わせてではなく、利用者とのコミュニケーションを大切に話しに耳を傾けて希望にそえるよう努力しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューの考えから買い物、準備から片付けまで出来ることを楽しみながら一緒にしています。職員も同じ食卓につき同じ物を食べながら、食事介助が必要な利用者に、自然な流れで声かけや介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、朝から夕方まで入浴できるようにしています。また、希望があれば毎日の入浴もできるようにしています。拒否傾向の利用者には、誘導の声かけや時間のタイミングを職員が工夫し、気持ちよく入ってもらえるように支援しています。また、清拭や足浴も必要に応じて対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	華道の先生だった利用者には、買って来た花や庭の花を生けてもらったり、庭の水やりをしてもらってます。踊りの得意な利用者には、行事で披露してもらい役割や楽しみを感じながら生活できるよう支援しています。また、吉本新喜劇を見に行ったり、テレビで歌番組や動物番組を見るのが楽しみとなっている方もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、庭でのひなたぼっこや散歩、ドライブを兼ねて買い物に行ったりしています。また、近隣で咲く桜を見に行ったり、ホームの庭でバーベキューやお弁当を食べたり、出来るだけホーム内で過ごすことのないように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方5時30分以降は鍵を掛けていますが、日中、鍵は掛けていません。安全に見守りながら、自由な生活を支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、年に1回避難訓練を実施しています。訓練は昼間の想定で行われており、夜間想定での避難訓練は行われていません。また、近隣の住人の協力は得られていません。	○	夜間想定での訓練を行いたいと考えており、実現できることを期待します。また、地域推進会議などを利用したり、自治会や地域の住民に呼びかけ防災訓練と一緒に参加してもらい協力体制を築かれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>必要と判断した利用者は食事量や水分量をチェックし記録に残しています。水分摂取量が不足しないよう、食事やおやつ時には、必ずコップ1杯の水分が取れるよう支援しています。野菜や季節の物をバランスよく提供できるように努力しています。また、毎月の体重測定や血液検査などの変化にも気をつけ、栄養状態を把握しています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、家庭的な雰囲気と個々の利用者が過ごしやすい空間作りのため、ソファや食卓などの家具の配置にも気配りをしています。皆で塗ったお月見の絵が飾られていたり、栗のイガの置物を飾ったり、季節感を取り入れています。眩しすぎないような照明や、時間の流れが分かるよう照明の使い方の工夫をしています。また、テレビや音楽の音にも気を配り、居心地よく過ごせる工夫をしています。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が今まで使っていたベッドやタンス、テレビ、大切にしている仏壇や家族の写真、人形、ぬいぐるみなどを持ち込んでもらい、居心地の良い居室作りを工夫しています。居室のドアには、利用者の好みののれんが掛けてあり、扉が開いていても、中まで見えないようにしています。生活スタイルも希望にあわせ、ベッドではなく布団で寝ている方もいます。</p>		